



三木北 Library

兵庫県立三木北高校図書室
令和2年7月22日(水)

さあ、図書室へ行こう!



みなさんはもう図書室にいきましたか? 6月中旬から各クラスの図書委員がカウンターで貸出・返却などを行っています。まだ行ったことのない人は、友達を誘って図書室に来てください。いろいろな発見があるかもしれませんよ。読書が苦手な人には、まずは雑誌や漫画、ドラマ化された本などをお勧めします。リクエストも受け付けています!

● こんな雑誌が入りました!

図書室には、オレンジページや Number、AERA などが入っています(バックナンバーは、窓側の棚)が、今回は特別に下の4冊が入りました。お昼休みや放課後の時間のあるときに、ゆっくり見てくださいね。



2年生修学旅行地



King & Prince 特集!



キングダム覇権の軌跡



『鬼滅の刃』特集

● 書店で話題の本、入荷しました!

『ぼくはイエローで、ホワイトで、ちょっとブルー』 ブレディみかこ(新潮社)

貧富の差、人種差別、ジェンダー、避けては通れない社会の理不尽さ。自分と同じ立場の人に共感したり、同情するだけでなく、自分とは違う立場の人の気持ちや視点になって考えることができる本。

『なぜ僕らは働くのか』 池上彰(Gakken)

働くことの意味、生活にかかるお金、AI時代の働き方、勉強することの意味、やりたいことの見つけ方……、これから大人になるみなさん、幸せになりたい人に贈る特別な一冊。

「さあ、図書室へ行こう」

進路指導部長 為山浩太

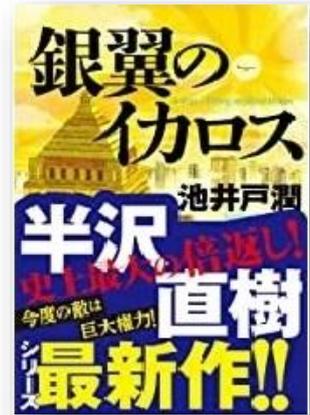
20代まで、私が本を購入するきっかけは、書店に出かけて1~2時間ぐるぐると店の中を歩き回り、心に引かれた帯や本のタイトルを見て数冊購入して読みました。その他に漫画の原作を読んだ。特に「花の慶次」で一躍有名になった『一夢庵風流記』は、ボロボロになるまで何度も読んだ。それ以降、隆慶一郎氏が書いた本はそのほとんどを読んだ。残念ながら、隆氏は小説家になった年齢が遅く、お亡くなりになるもの早かったために未完のまま終わってしまった小説も多い。



今は、テレビドラマの原作を読むことが多く、東野圭吾氏（『ガリレオ』や加賀恭一郎シリーズなど）や池井戸潤氏（『下町ロケット』や半沢直樹シリーズなど）をよく読んでいる。

東野圭吾氏の『ガリレオ』シリーズは物理や数学の話が出てきてなかなか面白い。特に私が、好きな作品は『容疑者 X の献身』だ。帝都大学物理学准教授の湯川学（主人公）をして天才数学者と言わしめるほどの才能を持った石神哲哉が、ひそかに恋心を抱く花岡靖子とその一人娘美里を救うために、完全犯罪を企てる。そして、その謎に挑む湯川学。完全犯罪を企てた石神の論理的思考に、私はどんどん吸い込まれていきました。非常に面白い作品です。しかし、どちらかといえばスカッと爽快で終わる作品ではなく、アン・ハッピーな作品です。

逆に、池井戸潤氏の作品は、苦難を乗り越えながらも最後には逆転に次ぐ逆転でスカッと爽快な気持ちで終わる作品が多い。『下町ロケット』は、主要取引先からいきなり取引終了を告げられ、銀行からの貸し渋りやライバル会社の訴訟などの困難に社員とともに主人公の佃航平が立ち向かっていく。また、佃が独自に開発した新型の水素エンジンバルブシステムが帝国重工のロケットエンジンのキーパーツとなっていてその特許を巡って……。池井戸氏の作品は、銀行員であった氏の経験がその作品に色濃く表現されていると思う。特に、銀行を舞台にした『俺たちバブル入行組』にはじまる半沢直樹シリーズは、こういう銀行員がいたらいいなという理想的な銀行員かもしれません。



7月から始まる半沢直樹は『ロスジェネの逆襲』と『銀翼のイカロス』を原作にテレビドラマとして放送されます。ハラハラ・ドキドキしながら見ていただけたらと思います。そして、図書室に行ってぜひこれらの作品も手に取ってもらえたらと思います。

【東野圭吾】

『探偵ガリレオ』『ナミヤ雑貨店の奇蹟』『秘密』『白夜行』『新参者』『麒麟の翼』

『マスカレード・ホテル』『容疑者 X の献身』『ラプラスの魔女』『人魚の眠る家』 ほか

【池井戸潤】

『俺たちバブル入行組』『オレたち花のバブル組』『下町ロケット』『陸王』 ほか

(図書室にあります。)